

船井情報科学振興財団 6 月留学報告書

荒川 陸 *

Carnegie Mellon University, School of Computer Science
Human-Computer Interaction Institute

June 2025

2021 年 8 月の頭に渡米をして、CMU でコンピュータサイエンス分野 (ヒューマンコンピュータインタラクション、HCI) の博士課程を開始しました。留学生活第八回目の報告書です！

1.1 CHI2025 in Yokohama

HCI 分野における最大の国際会議 ACM CHI がなんと横浜で開催されました。5000 人を超える参加者がパシフィコ横浜に集い、1 週間ほど HCI の様々な研究について意見を交わしました。友人の研究者たちを自分の知っている街に招待することは貴重な経験で、不思議と力が入りました。やはり何と言っても、(研究以外では) 食事を楽しみにしている方が多く、ラーメンやお寿司といった定番をはじめ、色々なレストランを案内しました。ユニークな体験型ミュージアムにも訪れました (図 1a)。日本での時間を楽しんでもらえたことが嬉しく、これまで文化や生活環境を築いてきた方々への感謝の思いを新たにしました。

今年の CHI には様々な形で関わっていました。一つはもちろん論文の発表で、日本の企業とコラボレーションして取り組んだ「AI 機能を実プロダクトに搭載していくためのデザイン過程を追跡したケーススタディ」を発表しました。詳細はこちら: <https://note.com/hciphds/n/ne49bba310c22> 次に、メインカンファレンスの前に開催されたワークショップに参加しました。ワークショップは一日ほどで、特定のテーマに関して興味のある研究者が集い、交流やディスカッションをメインとするものです。自分は「Everyday AR through AI-in-the-Loop」というテーマのワークショップと「Technology Mediated Caregiving for Older Adults Aging in Place」というテーマのワークショップに連日参加しました。前者は自分の研究のど真ん中のテーマで技術的に深い議論をして、自身の研究について紹介・意見交換を行いました。後者は今後展開していきたい方向性のコミュニティで、多角的な視点でフィードバックをもらうことができました。普段ワークショップは参加せず、その代わりに訪れた街の観光などをしてしまうのですが、横浜開催ということで、ワークショップに参加して充実した経験となりました。

さて、最後は Organizing Committee としての関わりです。学会はその分野の研究者たちによっ

<https://rikky0611.github.io/>



図 1: (a) CHI 後に行ったミュージアムの浮世絵プロジェクションマッピング、(b) Organizing Committee の法被、(c) 毎週金曜夜のバスケット

て毎年運営されていて、CHI のように大規模な学会だと多くの方が関わっています。その中でも自分は Paper Chair Assistant として、主に論文の査読プロセスについて関わりました。具体的には

- Subcommittee Chair (SC) を依頼・決定
- Call for Papers の執筆 / PCS のフォーム作成
- 各 Subcommittee で SC のサポート
- 投稿された全論文の最低限のクオリティチェック (フォーマット、匿名性、剽窃など)
- 査読プロセスに関係する様々な質問等への対応
- 採択された論文がスムーズに出版されるように Publication Chair との連携

一年以上前から毎週のミーティングで頑張ってきましたが、普段は見ることのできない査読プロセスの裏側を知ることができ、とても興味深い経験でした。Organizing Committee として限定の法被 (図 1b) をいただき、学会中はできる限り着用するように心がけました。こちらも詳細についてブログを書きました: <https://note.com/hciphds/n/n006cd7e50530>

1.2 バスケット

渡米してから最低限の運動習慣は維持しようとしてきましたが、このセメスターから週一でバスケットを始めました。CMU の FOS 組である長谷川さんと金村さん、それから仲の良い人たちで集まっています。金曜の夜に体育館に集まった人同士で即興でチームを組んで深夜まで試合をしています (図 1c)。だいぶヘトヘトになるのですが、毎週を締める楽しいイベントです。

1.3 終わりに

取り組んでいる研究をしっかりと社会にデプロイしてから卒業をしようということで、6 年で卒業するプランに決断しました。卒業後のキャリアもしっかりと見据えながら、残りの学生生活を悔いのないように過ごしていきたいと思います。